

第5回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成 23 年 10 月 28 日（金） 10：00～11：30

II 会 場 千葉市総合保健医療センター 4 階 会議室

III 出席者

（委 員）杉田委員、碓氷委員、菊池委員、小林委員、谷口委員、夏目委員、
野口委員、鈴木委員、高井良委員、岡田(明)委員、加瀬委員 計 11 名
（代理出席）木村氏・山口氏(久保田委員代理出席)、山田児童相談所長補佐(山口委員代理出席)
（事務局）発達障害者支援センター：加瀬支援員、仲村支援員
障害者自立支援課：小出課長、松田係長、岡本主任主事、新宅主事、丸木主事

IV 配付資料

| | |
|------|---------------------------------|
| 資料 1 | 発達障害者支援の今後の方向性＜提案書＞（案） |
| 資料 2 | 前回からの変更点 |
| 資料 3 | 第 4 回連絡協議会の主なご意見一覧表 |
| 資料 4 | 平成 23 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業実績報告 |
| 資料 5 | 機関支援におけるモデル的取り組みについて |
| 資料 6 | 視覚障害者等情報支援緊急基盤整備事業について |

V 議事概要

（１）発達障害者支援の今後の方向性（案）について

事務局より、資料 1～資料 3 に基づき説明し、質疑応答を行った。委員からの意見は、あらためて提案書（案）に反映させ、反映版を座長が承認することをもって確定とする旨、出席委員多数の賛同により承認を得た。（意見は別紙 1 のとおり）

（２）千葉市発達障害者支援センターの実績報告について

谷口委員より、資料 4 と併せて支援センターの活動を報告し、質疑応答を行った。

（３）機関支援の取り組みについて

事務局より、資料 5 に基づき進捗状況を説明し、質疑応答を行った。

（４）その他

☐ 視覚障害者等情報支援緊急基盤整備事業について

事務局より、資料 6 に基づき、発達障害の特性を勘案した情報支援機器について、平成 23 年度中に購入予定である旨、報告した。

☐ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙 2 のとおり

【別紙 1】提案書（案）に対するご意見と反映状況

※ ページ順に記載

① (P. 16) 「理想的な個別支援」のフロー図について【杉田委員】

ご意見

提案書全体としてサポートという概念が弱いので、「理想的な個別支援」のフロー図の中に「支援プログラム」を工夫して盛り込むこと。

対 応

個別支援計画を起点とした PDCA サイクルに変更し、サポートと評価の概念を明確に記載するとともに、前回の意見にもあった「親への支援」を併せて実施することを明記した。

② (P. 17) 文部科学省による調査結果について【杉田委員、菊池委員】

ご意見

「学習障害」や「行動障害」などの表現が、読み手に誤解を招く恐れがあるため、出典元の表現と整合性を図ること。

対 応

文部科学省による調査結果と書きぶりを合わせた。

③ (P. 20) 支援プログラムの参考例について【菊池委員】

ご意見

発達障害児者支援に有効な「ABA（応用行動分析）」を参考例に入れること。

対 応

参考例として挿入した。

④ (P. 20) 支援プログラムの参考例について【木村氏】

ご意見

発達障害児者支援に有効な「感覚統合訓練」を参考例に入れること。

対 応

参考例として挿入した。

⑤ (P. 21) 普及啓発と併せた相談機関等の周知について【碓氷委員】

ご意見

支援センターを含めた相談機関について、ポスター等で周知することが必要。

対 応

(3)の3段落目に「なお、発達障害の理解促進と併せて～」を挿入。

【別紙２】第５回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

○ 事務局（加瀬）

～開会、資料確認等～

○ 小出課長

皆様おはようございます。障害者自立支援課長の小出でございます。

本日は、お忙しい中、本連絡協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日頃より本市の発達障害者支援の推進にあたり、ご理解・ご協力をいただいております。重ねて御礼申し上げます。

さて、この連絡協議会は、発達障害者に対する総合的なサービスの在り方や、関係機関の連携体制の確立、また、関係機関が抱える諸問題への対応を、専門的に協議・検討するため、平成２０年７月に設置されたものであり、本日で５回目を数えることとなりました。

この間、ライフステージごとの一貫した支援を推進することを目的とした「ライフサポートファイル」について、委員の皆様方のご意見をいただくことにより大変素晴らしいものが作成されたとともに、千葉市発達障害者支援センターのホームページにデータを掲載し、多くの方にご活用いただけるよう、広く一般公開をしているところでございます。

また、本日は、前回事務局よりご提示いたしました「提案書」につきまして、前回のご発言等を反映させたものをあらためてご提示させていただくほか、発達障害者支援センターの取り組みをご報告いただき、委員の皆様とこれを共有するとともに、それぞれのお立場からのご意見を賜りたいと考えております。

最後に、発達障害者支援センターが行う発達障害者に対する支援の充実、並びに本市の発達障害者施策の推進には、本連絡協議会における委員の皆様からのご意見が必要不可欠であると考えておりますので、引き続きご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○ 事務局（加瀬）

～新委員紹介～

それでは、次第の５議題に入らせていただきます。以降の進行は杉田座長にお願いいたします。

○ 杉田座長

皆さんおはようございます。

さきほど課長からのお話しにもありましたが、行政サービスに対する意見ということで、この連絡協議会は法的な位置づけはありませんが、発達障害に関しては、この場が市内唯一ときいています。

本来は行政のサービスを一般の国民がチェックするのは当然のことなのですが、日本はそれが弱いので、今日は、忌憚のないご意見を出していただき、行政サービスがより良くなるよう、遠慮なくご発言いただきたいと思います。

時間のほうも 11 時半を目安に閉会ということなので、よろしくお願いします。

また、今回提示されるものは、前回 2 月の連絡協議会の案に対する会議内での委員からの発言と、その後提出のあった意見票を反映させたものと聞いています。

なお、来年 1 月をもって、千葉市に発達障害者支援センター開設 5 年目という一つの節目を迎えることとなりますので、これまでの経緯を振り返るとともに、今後の方向性を整理した、連絡協議会から千葉市への『提案書』という位置づけのものです。

それでは、説明をお願いします。

○ 事務局（岡本）

～資料 1・資料 2・資料 3 の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。

ただいまの提案書の案について、質問や意見はございますか？活発なご意見をお願いします。

○ 菊池委員

自閉症協会の菊池です。説明ありがとうございました。

前回にも申し上げましたが、発達障害は、子どものときにきちんと理解してあげて支援することで、成人になったときにも社会に適応していけます。

この資料をみせていただいたときに、コスモの久保田さんの意見であった二次障害のところは見逃せないところです。二次障害にどのような対処をするべきか、これが大切で、個別支援の中で入れていただけないか、と思います。

19・20 ページのところで、行動問題をどう見るのか、ということで、応用行動分析（ABA）をいれていただけませんかでしょうか。

○ 事務局（岡本）

20 ページで TEACCH プログラムしか参考例の記載がないですが、ここに応用行動分析（ABA）を加える、ということでよろしいでしょうか。

○ 菊池委員

はい。どうしてそのような問題になったのか、行動ではなく、その行動を起こすもとに迫る、という考え方なので、とても有効なものです。

○ 事務局（岡本）

20 ページの参考例に応用行動分析を記載するという整理でよろしいでしょうか。

○ 菊池委員

はい。それをお願いいたします。

○ 杉田座長

ほかにございませんか？

○ 菊池委員

17 ページの文科省の調査のところに、学習障害や行動障害という記載がありますが、誤解を受けないでしょうか。杉田先生はいかがでしょう。

○ 杉田座長

最後に指摘しようと思っていましたが、学習障害と行動障害を併記していることや、行動障害の定義、それから比較的重度、という曖昧な表現について、おそらく事務局の方で検討した記載方法かと思いますし、また、調査自体も先生方の視点での報告で、医学的なものではありません。誤解を招かないよう、文科省の報告書の記載方法に変更したほうが良いと思います。

○ 事務局（岡本）

はい。それでは文科省の調査報告の書きぶりに揃えるよう変更します。

○ 夏目委員

15 ページのライフサポートファイルを積極的に活用することが有効とあります。ファイルは、事務局をはじめとして皆さんで作成したのですが、我々にも責任があるのですが、もっと広く知らしめて行かなければいけないと思います。とはいえ、なかなか現実的にそうではない状況で、反省をしています。我々のほうでは相談支援事業を展開しているので、ファイルの一部を抜粋しながら、保護者の方に使ってもらうよう努めてはいるところです。そこで、ファイルの周知について、具体的にどのような取り組みをしているのか、また、どのような状況になっているのか、お聞きしたいと思います。

○ 谷口委員

感覚的には、多くの方にご活用いただいている状況ではないかもしれませんが。支援センターのほうでも拡げる努力が必要であると認識しています。実際に利用者さんとの相談対応時に紹介をすることもあります。まだまだ数が少ないかもしれません。学校への研修の際にファイルの話をしたり、周知に努めるようにはしておりますが、まだまだ足りないかもしれません。まずは先生方に使っていただく、関係施設等の支援者に使っていただくと良いとも思いますが、まずは書いてもらうことよりも、こういうものがあること、こういう視点で考えられることを知っていただくことで、地域での理解が広まることは認識しています。

○ 菊池委員

支援センターと関係機関が協力してファイルを普及する必要があるとの記載があります。そのときに、支援センターがどのような取り組みをしているのか、ということを知りたいと思います。自閉症協会としては、ライフサポートファイルを会員に周知する程度しかできていません。実際には、すべてを記載したファイルを受け取ってもらえるのか、というのが大きな不安です。特に学齢期の親御さんは、うまくコミュニケーションをとりたい、というのが先で、受け取ってもらえるかが心配なので、受け取る側への普及に関する展開と、現にどうしているのか、というのを伺いたいと思います。

○ 谷口委員

実際の取り組みとしては、さきほどのとおりです。受け取ってもらえるか、というところでは、まずは親御さんや教育関係、福祉関係への協力の前に、こういうふうなことで悩んでいることを理解していただくという作業に時間を費やしているところなので、ライフサポート自体の普及という視点では不足していると思います。

○ 菊池委員

それではなんのためにライフサポートファイルを作成したのか、ということになってしまいます。うちの子どもはとても重度なのですが、このような支援をお願いしたい、こういった配慮が欲しいです、ということは書いて関係者に見てもらっていました。ファイルができる前の話です。そうやって、いま新しい施設を利用しています。私自身は、このファイルはかなり有効なものと思います。普及については、支援者とそれを受ける側の両方への普及が必要だと思います。関係機関へ歩いて普及活動をしているとか、そういったところを伺いたいと思います。まだまだ普及はしていないと思いますが、それをどう広めていくかが大事であって、これを使いながら、これを修正しようとか、そういった意見は使われなければ出てこないの、普及させる努力を誰がどこでやろうか、というところが重要です。ファイルはいろいろなところで作っています。その中でも、千葉市のファイルがいいんです、というところは我々も含めてみんなで具体的な活動をしないといけないと思います。

○ 杉田座長

そのとおりと思います。

また、次に支援センターの実績報告もありますので、ファイルに関しては、そこでの報告を受けることにしましょう。まずは提案書のほうで、修正を要する部分の意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○ 木村氏（久保田委員代理出席）

さきほど菊池さんから ABA のことが出ていましたが、ここに感覚統合の訓練を入れていただけますでしょうか。

○ 杉田座長

訓練法に関しては、いろいろと言われていることではありますし、どれが良いのか、という評価も難しいとは思いますが。また、提案書の中には個別というよりも総論的なものを例示すべきだと思います。これを踏まえても、感覚統合の訓練については、一般的用語として使われているものですから、事務局としても加える方向でご検討いただければと思います。

○ 事務局（岡本）

了解しました。

○ 杉田座長

ほかにございませんか。

○ 碓氷委員

16 ページに関係者への気づき、というところがありますが、先生方は気づくようになっています。とはいえ、親御さんになかなか促せない実態はあるので、遠まわしの支援を行っているのが現状です。私としてはポスターがあると良いと思っていて、例えば昇降口等に「悩んでいませんか」というようなポスターがあると、気軽にカウンセラー等につながるができると思います。ライフサポートファイルもそうですが、自分が発達障害であると分かって支援センターのホームページを見ると、こういったファイルがあることに気づくような状況です。そこで初めて「困っていませんか」というような記載があるわけです。入口の部分で、見えない状況になっているのではないか、ということで、結論から言うとポスターが必要ではないか、ということです。

○ 事務局（岡本）

碓氷委員がおっしゃっているのは、支援センターのポスターが必要ではないか、ということでしょうか。

○ 碓氷委員

ポスターの最後に、支援センター等の相談機関があると良いと思います。

○ 事務局（岡本）

広く普及啓発という意味で、理解促進、入口部分を知ってもらうようなポスターという理解でよろしいでしょうか。

○ 碓氷委員

はい。発達障害という記載が冒頭にあると、私はそうではないから、というところから、相談機関につながらないことになります。こんなことで困っていませんか、という切り口で、先生やカウンセラー、支援センターにつながるように促すと良いと思います。

○ 事務局（岡本）

それでは提案ですが、大枠の考え方、ということではなくて、21 ページの具体的な役割の部分の普及啓発のところに加えるというのはいかがでしょうか。

○ 碓氷先生

方向性という大枠の中に入れていただければよろしいかと思います。自閉症啓発デーのポスターは良く見るのですが。

○ 事務局（岡本）

わかりました。それでは21 ページの中に工夫して加えるようにしたいと思います。

○ 杉田座長

よろしくお願いします。ほかにございませんか。

それでは私のほうから申し上げます。支援プログラムという言葉がありますが、16 ページでもアセスメントという記載があり、この提案書の案では、サポートのいう概念が全体的に弱いように思います。なので、個別支援計画、この中にプログラムという概念も入ってくるのですが、実際にサポートをするんだ、という意味で、支援プログラムという言葉で、16 ページの図に入れていただきたいと思います。

事務局も大変かと思いますが、意見を踏まえて、修正をお願いしたいと思います。それでは、今日の日付で確定をしたいと思いますが、その方法はどうでしょうか。

○ 事務局（岡本）

杉田座長のみに確認をお願いするのか、委員の皆様にも修正したものをお送りして確認をするのか、どちらがよろしいでしょうか。

○ 杉田座長

もしよろしければ、私が座長ということで責任もってチェックさせていただいて、これを最終的なものとして、千葉市のほうに提案ということでよろしいでしょうか。

（賛成多数）

それではそういうことでお願いいたします。

次にすすみます。支援センターの実績報告をお願いいたします。

○ 谷口委員

はい。支援件数等の数値的なものは資料4をご覧ください。こととして詳細の説明は割愛とさせていただきますが、件数の伸びは平成20年度以降、2倍、1.5倍、今年度もかなりのペースで相談を受けている状況です。

現場では、緊急を要するケースも増えてきており、どうすればよいか、というところで悩むケースも増加傾向にあると思います。

近年では、発達障害という枠だけではなく、診断を受けていない方の相談も受けて

おり、まずは支援センターで相談を、という方が増えてきており、実際は発達障害の知識だけでは対応が困難なケースが多い状況であるので、まだまだ勉強が必要と感じています。

また、就労には4名が結びついており、企業の方と協力してサポートをしているような状況です。

さきほど話が出ましたが、子どもへの支援という視点からは、昨年度、地域での機関支援ということで、年中児さんの行動観察を行いました。支援センターだけではなくて、養護教育センターや保健師さんの協力をいただいて、幼稚園・保育園で実施してきました。支援センターはコーディネーターをすることも大きな役割でありますので、今後、地域の保健師さんや保育士さんへの研修も必要と認識しており、予算的に厳しいところはあるのですが、少しずつすすめていければと思っています。簡単ではございますが、以上です。

○ 杉田座長

ありがとうございました。何かご意見等ございますでしょうか。

○ 夏目委員

3か所の機関支援を実施したとのことですが、これを末端まで広げていくということが支援センターの役割だと思います。我々も協力していくつもりですので、支援センターの頑張り次第で、千葉市の発達障害者の幸せが変わってくる、というふうに思っていますので、是非よろしくお願いします。

○ 杉田座長

今後の頑張りに期待ということでよろしくお願いします。

それでは、次に進みます。(3)『機関支援の取り組みについて』です。

発達障害者支援センターでは、平成22年度に、機関支援の一環として、関係機関と連携した活発な取り組みをモデル的に実施していると聞いています。

それでは説明をお願いいたします。

○ 事務局（岡本）

さきほど谷口所長からお話がありました機関支援の取り組みについて、少し掘り下げて分かりやすくしたものが資料5でございます。時間の関係もありますので、ここでは状況の報告というところでとどめさせていただきたいと思います。それではご説明いたします。

～資料5の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。谷口委員から何か補足はありますか。

○ 谷口委員

ここにもありますように、全市的に実施することは困難ですが、これからの運用の仕方としては、区単位で考えたり、中核となるところで投げかけたり、そのように考えています。

○ 杉田座長

ほかにございますか。

○ 菊池委員

36 名の方々への支援について、どのように継続して行われているのか、教えていただけますか。

○ 谷口委員

まずは実施した日に、職員全員に集まっていただいて、一人一人の支援の検討を丁寧に行いました。そこで、園の中でできることと、支援センターや関係機関につなぐべきことを整理しました。その後のフォローとしては、あらためて園に出向いて状況の確認をしているところであり、そこからまた関係機関につながったりしているところです。36 名の方について、いま現にある不安を少しでも軽減したり、少しでも配慮が必要なことをさらに見極めて、具体的対応をすすめているところです。

○ 杉田座長

ほかにありますか。今後は、このモデル事業は広がっていく予定なのでしょうか。予算的な裏付けも含めて、いかがでしょうか。

○ 事務局（岡本）

申し訳ないのですが、予算的な裏付けはありません。熱意のある方と趣旨に賛同いただいた方が、本来業務の中で、言い方は悪いかもしれませんが、片手間でお手伝いいただいて実施された取り組みでございます。ただ、我々としても、明らかに効果がでるようなものであれば、何らかの事業化や予算化を検討する必要があるだろう、という認識ではあります。ただ、まだ効果が良く見えないので、市民に対して予算という部分で説明ができない状況であるので、これを評価している段階ということです。

○ 杉田座長

そうですね。やれば良いというわけではないですし、常にエバリュエーションと言いましょうか、行政サービスを含めて評価していかなければなりません。是非、こういったことを踏まえまして、発達障害者支援が広がっていくことを望みます。最後にその他ということで、事務局から何かございますか。

○ 事務局（岡本）

はい。2点ございます。

1点目は、発達障害の特性を勘案した情報支援機器の購入に関してのお知らせでご

ざいます。これについて、資料に基づいてご説明いたします。

～資料6の説明～

もう1点です。

本日の議事録についてですが、提案書の内容も含めまして、杉田座長に内容を確認していただいたうえでご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか？

(賛成多数)

ありがとうございます。事務局からは以上です。

○ 杉田座長

それでは、本日の協議会全体を通して、委員の皆様方から何かございませんか？

本日は課長に最後まで同席していただいて、今年度は力を入れていただけそうで、大変心強く思います。

ほかにはないようでございますので、これで本日の議事を終了いたします。それでは事務局にお返しいたします。

○ 事務局（加瀬）

発達障害講座ということでチラシを加えさせていただきました。12月10日に開催いたします。武藤先生と齊藤先生に御講演いただく予定ですので、関係者の皆様にご周知いただくとともに、奮ってご参加いただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

それでは委員の皆様方、長時間にわたりご議論いただき、ありがとうございました。以上をもちまして、第5回千葉市発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。